

令和6年度 広神東小学校 学校経営方針

校長

一人一台端末を活用した授業改善が進み、個別最適・協働的な学びを日常の実践でどう効果的に行うかが求められている。CS（コミュニティスクール）事業は3年目となり、より地域に根差した教育活動の充実や、子どものために職員の働き方にもゆとりが求められている。

当校は今年度も授業における一人一台端末活用を図りながら、子どもの主体的学びを支援し学力向上への取組を充実させる。そして、地域の教育力をより活用しながら子どもの活躍の場を作り、ゆとりある時程のもと、当校の教育活動を、さらに創意工夫して確実にやっていく。

◆広神東小学校 教育目標

- すすんで学び くふうする子ども
- 力を合わせて やりぬく子ども
- 明るく 元気な子ども

◆R6年度重点目標

「意欲を持って 聴き合い・伝え合う子」(2年次)

私は校長として、学校経営で以下のスローガンを掲げ、広神東小の教育目標・重点目標の具現化を図る。

◆学校経営スローガン：「あい」「たい」がある学校を みんなで創る

「あい」…「高め合い」「認め合い」「支え合い」 のびていく子どもたちと
 「たい」…「学びたい」「通わせたい」「勤めたい」 保護者・地域・職員

- 1 高め合い学びたい学校 ～「意欲・かかわり」を育て、子どもの自己肯定感を高める～
- 2 認め合い通わせたい学校 ～子ども・保護者・地域の思いを認め、教育活動に生かす～
- 3 支え合い勤めたい学校 ～学び合う職員集団「チーム広神東」の充実を図り、
支え合ってゆとりある職場への働き方改革を行う～

子どもが高め合い学びたい学校を目指すために、支持的風土がある、互いが認め合い高め合う活動を取り入れた学級づくりを行う。教育活動の中核である授業では「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった改善を進める。研究主題を共有し、全職員で力量を高める。子どもの実態から子どもの声を生かした学習課題を掲げ、ICTの活用や、仲間との協働で解決を進めることで、子どもの「自己肯定感」を高め、各自がお互いの考えを繋ぎ深めていくような、たくましい力を身に付けさせる。

保護者・地域が認め合い通わせたい学校を目指すためには、保護者・地域とともに歩む学校づくりが不可欠である。保護者・地域の願いをCS委員会との連携や学校評価でみとる。学校の様子を日々地域に伝え積極的に協力・支援を呼びかけて、その力を活用した教育活動を多く取り入れていく。

職員が支え合い勤めたい学校を目指すために、各自が学校の顔との自覚をもち、助け合う集団でありたい。教職者として率先垂範し、専門性を伸ばし、いかにしながら組織的に教育活動を行う。ワークライフバランスを互いに尊重し合い、働き方改革の視点からより明るい雰囲気のある学校を創る。

◆教育目標・重点目標具現の具体策

1 「高め合い学びたい学校」に向けて（子ども）

（1）魅力ある学校・学級づくり（授業や行事、休み時間を通した一人一人の居場所・絆作り）

- ・明るくあいさつを自分からできる、返せることを認め合い、推奨していく
- ・行事や学習活動において、めあてを立て、後に振り返りお互いに認め合うことで、達成感・成就感をもたせ、自身の成長自覚につなげる（「あゆっ子メッセージカード」の積極的活用推進）
- ・いじめ・不登校・問題行動への的確・組織的な対応を図る。いじめ見逃しゼロ・未然防止を行う

（2）「主体的・対話的で深い学び」への授業改善と「基礎的な学力技能作り」の二刀流の推進

- ・「新潟学びチャレンジ」やICTを活用し授業改善を進め、「個別最適・協働的な学び」を目指す
- ・個別のドリル学習や家庭学習（ICT活用を含む）を大事にし、基礎学力技能向上の取組継続を行う
- ・NRT、全国学テ等の分析を基に成果と課題を共有し、実態に応じた着実な重点化指導を行う

（3）安心・安全な学習環境（個に応じた生活様式定着と認め合う仲間作り）

- ・居心地のいい学校・学級集団のために、特別活動の充実（異年齢若あゆグループ活動や各クラスの会社活動・高学年の児童会活動等）、web Q-U 調査の分析・活用を行う
- ・特別支援教育の視点を重視し、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の立案、実践を行う。職員間で連携し一人一人の特性に応じた対応や交流学习、UDLや個別支援の工夫を行う
- ・健康な心と体作りのために、感染症対策、継続・系統的な保健指導（メディア接触時間・依存改善）、個の状況に応じ専門機関やSC（スクールカウンセラー）と連携した相談活動を行う

2 「認め合い通わせたい学校」に向けて（子ども・保護者・地域）

（1）笑顔あふれる教育実践の情報発信（子どもたちの活動・活躍の姿の広報）

- ・HP「日々日記」の更新、廊下掲示写真「あゆっ子の1年」の作成、学校・学年・学級便りの充実

（2）保護者・地域の願いや良さを生かした活動の設定（保護者・地域と子どもたちの関わりの充実）

- ・CS推進員や地域Coと連携し、「CSルームの設置」や「休み時間の児童見守り」、「あゆっ子野菜プロジェクト」「国際交流」や地域を知る・伝える総合的な学習等の開発、充実、発展を図る

（3）保・小の接続や中学校区との連携の充実（「架け橋期」教育活動・小中連携活動の工夫）

- ・保育園での成長を生かす1年生授業の工夫や、各校の教育活動と子どもの実態を、中学校区で共通理解し、精選・見直しを含めて共に目指す姿や取組を明確化する（保小連絡会・地区教振研修）

3 「支え合い勤めたい学校」に向けて（職員）

（1）自分の得意分野を見つけ、磨き、「のりしろ」を出し合って支え合う職員集団

- ・校時表変更を生かし校務を効率化し、自分の能力・労力・時間を傾斜配分する（○だけはやる！）
- ・全員が子どもの担任という共通認識で、子どものために仕事のヘルプを出し合える集団になる

（2）「市立学校における働き方改革の方針」に則って、各自のワークライフバランスを大切に

- ・校務終了予定時刻（19:00以下）を各自設定し、その中で校務を計画的に行う
- ・子どもたち、職員個々の家族のために無理せず、リフレッシュ年休、早出遅出勤等取得する

（3）ちょうほうれんそうかく（調整、報告、連絡、相談、確認）をし、お互いの仕事が見えやすい職場に

- ・教育活動の重点化を目指し、積極的に精選アイデアを出し合う（教育活動振り返りシート活用）
- ・公務員としての自覚を忘れず、定期的研修を実施しながら自律的に非違行為防止に努める